

毎週日曜日発行
定価 一月二十五円
三月七十五円
半年一百五十円
一年二百五十円
廣告 一行五十円
場所指定 二十圓増
郵政局特許第六七二號
福島縣平野市大町八番地
編輯發行印刷人 木村安次

通を受けるため出福中の樋口町長、御代會長、町會委員は小野義一縣議の斡旋により石原、大和田正副知事及び丸尾部長等の助力を受け日銀支店と折衝を続け結果、日銀支店側は常陽東邦兩銀行と交渉兩行から差當り四百萬圓を急場用に融資することに決定し、一行はこれを土産として十四日歸町、更に殘額三百萬圓に對し今後交渉努力する。

清酒釀造増加による 益金で取引高税廢止

關内代議士の議會報告

民自黨平支部結成準備會終了後關内代議士を圍み座談的に議會報告があつた、所謂田内閣總辭職後吉田内閣成立までのいきさつを詳細に渡り説明、昭電事件、石炭國管問題等につらなる人々をワモロコシ、菊芋等によるの立場に言及、石炭國管調査團員としての關内氏はこの問題には關係なく國管反對の立場にあつたので幸ひ金錢的な不正もなく無難であつたと言明、今後の政治家は勤勉を旨とし榮達をあせらす、じみちな努力が必要であり斯くして初めて立身出世することになるのであるから自分は此の道を行かうと決心する。

民自黨支部結成 大會日程さまざま

平支部が郡支部?

民自自由黨平支部結成準備會は去る二十六日午後三時活動的な意見の交換に入つた、民報ホールで開催準備會は舊自由黨舊民主黨系の有志七十餘名、發起人を代表して萩原義雄氏が最近の情勢からみて同志結合の要を解説し開會の挨拶を述べ野崎満藏氏を議長に満場一致推選し金古政通氏から準備會を開くに至つた経過報告を受けた。

勤勞婦人と 組織の強化

勤勞團体の組織確立については種々論議され着々その實を擧げているが、組合の環境であるが、組合の環境は一環である婦人部に於ては未だ確固たる内容を具備していないものが多い、從來の婦人部は組合内にあつて

400万圓 小名濱揚繰漁業 急場救済金決定

地元融資三百萬圓を

男子組合員の指導と教導に支へられてゐる有様であつて何等婦人の自主的なものがなかつた、これは勤勞婦人の向上の點に於て甚だ遺憾の極みである、現今の社会情勢並に組合の情勢下にては婦人自ら奮起し解決を自擧げなければならない幾多の困難が山積されてゐる、あ

金古政通氏「現在の状態からみて先づ平支部の結成を先決とし後日他町村の支部が結成せられた場合は磐城聯合會のようなものをつくり黨の運営を計るのもよいと思ふが、下は平支部の結成を急ぐ要があり組織強化の意味からも重要である」

等活動的な意見を通じ其の他從來の保守政黨支部は選挙對策を主眼として進歩政黨の如く組織を強化し常に黨員間の連絡を圖つて縣政市町村政などを批判し地方議會にも支部の意見を反映する必要がある、黨費の一部の寄附に依存することなく黨員の負擔とする方法をとるべし、等の支部組織に關する意見が續出し、結局支部結成準備委員十名を擧げ十一月十四日日本支部の臨時座談會を求むて支部結成大會を開催することに決定、それまでに郡支部の連絡ができた場合は郡支部として、磐城支部とする。不可成なる場合は平支部として後日郡支部の一体化を圖ることに一切を準備委員に任した。

支部結成準備委員、金古政通、山野邊義政、大野友春、水竹伊之助、加藤正保、白土作三、野澤武藏、其の他女性三名を委任す

農協青年連盟の結成

郡下農協組合長會議

石城郡下農協同組合長會議に決定各町村PTA等に三日間福島市に農協祭を開く尚農協組の政治的促進を計議すること、縣下農協組大の外廓團體として農協青年會並に同十九日福島第一小年聯盟を結成すること、し學校に開くこと等を説明協十一月十二日郡下に結成準備同組合主義を徹底させる意圖委員會を開催することに味で子供協組を設置することについて代表数名出席

十月三日文化祭に
平レクリの
市民大會

(七日平工)
△子供レクリ大會(七日第一小學校)
▽模型飛行機大會(十四日平南平工)

合議制裁判
全選公判延期
小名濱支部關係

去る二十八日開選の豫定であつた全選小名濱支部長片寄幸男氏以下五名の職場離脱に關する第二回公判は來月十日に延期され、尙辯護人側の要望と審理の慎重のため志村、安達、猪狩判事立會による合議制裁判を行ふ

**待望の六代目
尾上菊五郎一座**
一行八十餘名
期日 十一月三日 二日間
四月(晝夜二回)
會場 平市演界館
川德演劇部
興行責任 松本辰雄

サレピスの店
高級皮バンド 化粧品
冬大人小供帽子入荷致しました
マサゴヤ洋品店
平市中央通り(世界館入口)
電話 四六番

青果物 食料品 卸問屋
三國屋
高野正男商店
平市南町
電話 一〇〇八番

平市五丁目
釜屋商店
電話九番九番九番

安いから賣れる
いづみやの
ライターとケース
いづみや
平驛前 電話348番

マルトモ柴田書店
電話 二三四番
一四番
二四番
九六番
八九番

マルトモ食堂
電話五七〇番

税金の對象となる 商店の看板と廣告

平市で有名商店といふは、釜屋、林、百澤、坂本、袋屋、マルト、モ、横山といつたところであるが、これらの商店はほとんど言ひ合したるに、これが従來の平市内商店の傳統である。

悪税廢止と

料飲食店の再開

悪税の強化は政治的貧困を方惡税の廢止をなすべきで、物語るものであり取引高税、からミシシシ税に至るまで幾多の悪税に國民はあえいて、困難な現今料飲食店の再開に、これら悪税の廢止を求め、先づ第一にその對象となるものには、裏口營業で社會的大問題を投げかけている料飲食店である。如何に持込み遊興ならば差支へないといふもの、裏口營業では脱税が多く其の質は益々悪化するばかりで、あることは實に重大である。このまゝ放置し得ない状態である。

夏井溪谷見學

觀光地としての夏井溪谷見學、本社は十一月三日社員の紅葉狩を兼ねる意味で、觀光地夏井溪谷を見學することに決定、次號より觀光記事掲載することに近々町會に再提案する。

赤字經營による閉鎖に反對濃厚

田人村所在田人炭礦社長金子長次郎氏は九月以來埋藏金の一部として八萬圓を支拂つたが、會社側では従業員の大整理を行い、賃金の低下を圖り再建に乗り出す腹であるといはれて、周囲の情勢は閉鎖反對の意見が濃厚であり、二十九日再び勞資交渉を行なつた。

四倉揚繰漁業

四倉町では揚繰漁業を救済するため町の補償で七十七銀行から不取敢三百萬圓の融資の懇請を、緊急町議協會を開催しこれを決定し、交渉委員に左の七氏を挙げ活動を開始した。融資確定の場合には直ちに臨時町會を開催して正式補償手續を執ることとなつた。

冬期列車時間

冬期列車時間は十一月一日から開始、上り十三時三十分、下り十五時三十分、平一日に變更して勿來止りとなる。又下り湯本始發十六時三十分、湯本行車は勿來發に延長、同時間勿來發となる。磐城線では平始發七時三十分、小川郷止り、小川郷發八時七分の一往復が十五日から追加される。

小名濱町會に近づく再提案

町會建設の途上に一ヶ所の撤退したが今回は大小名濱ランドも持たぬことは遺憾であるとの聲に刺激されてその必要性を認識するに至り、近々町會に再提案する。



「誰に戀せん」

大映東京がひさびさに贈る豪華けんらんラヴ、ロマンスメロドラマ「誰に戀せん」若き青春の戀、高峰三枝子、龍崎一郎、世界館

「風の中の牝鷄」

風の詩人、小津安三郎が情熱の鬼となつて作りあげた日本映畫の最高傑作、佐野周二、田中絹代、平野館

「愛の勝利」

愛の勝利、ベティデイヴィス、平野館

三夜劇場
十一月二日三日
松竹座
双葉艶子
十一月十五日
關東浪曲の大家
木村幸衛

尾張屋
平市五丁目十九番
電話九四七番

市川パン店
平市四丁目三番
電話九三六番

永山クリーニング店
平市六丁目

敷島
平市六丁目

内科
泌尿器科
皮膚科
理學診療科
平市南町T107
松村醫院

平市四丁目
關内藥局
電話四〇番

東洋オートバイ曲乘俱樂部
選手多數來演中
當地十五年ぶりの公開
男性的新興スポーツ
スリルと冒險
十月三十日ヨリ
十一月七日マデ
場所 田町銀座通り
主催 平市小關興行部
俱樂部

生か死か
オートバイの絶壁曲乘
【十萬圓懸賞金付】
平市小關興行部
俱樂部

鈴重興行社
巡業映画班
電話四二二番

女店員急募 貸席大
小名濱町

本店 大塚食肉問屋
平市六丁目 電話五三九番

平市青果物荷受組合
組合長 國井一美